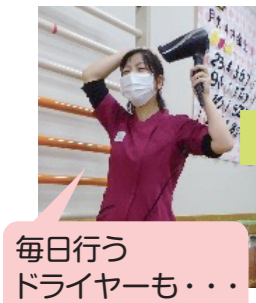
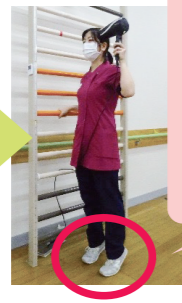


## 健康寿命を延ばそう 日常に無理のない筋トレをプラスしませんか～Let'sながら運動！～

ながら運動とは仕事や家事、日常生活をしながら行うことができる筋力トレーニングやストレッチ運動のことです。今回は日常生活のなかで行える3つのながら運動をご紹介します。



毎日行う  
ドライヤーも・・・



転倒に注意し  
掴まりながら、踵の  
上げ下げ運動をしま  
しょう！



寝転んで見るスマ  
ホやテレビ中も・・・



新聞や雑  
誌を見な  
がら・・・



足の上げ下げ  
運動しましょう！



踵の上げ下  
げ運動をしま  
しょう！

クリスマス会 おやつ  
12月17日



クリスマス会  
12月17日

クリスマス会  
12月17日



主の誕生ミサ  
12月24日



豆まき  
1月23日



## 2026年1月 生産性向上推進体制加算(I)を届出しました。

- ・生産性向上推進体制加算とは、2024年度の介護報酬改定で新設された制度です。
- ・本制度は次の4つの実現を目的としています。



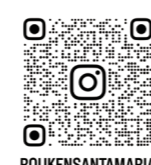
- ①利用者の安全の確保、②介護サービスの質の確保、③職員の負担軽減、④ICT化の促進
- ・生産性向上推進体制加算（I）は、より高度な生産性向上への取組を評価する区分で、具体的には見守り機器・インカム・介護記録ソフトウェアなどのテクノロジーの導入と介護助手の活用等で算定が可能になります。
- ・当施設は、これに限らず利用者様の安全と安心の確保と介護サービスの質を探求してまいります。

社会福祉法人 聖霊会 老人保健施設 サンタマリア

住所：〒468-0003 名古屋市天白区鴻の巣1-1101  
電話：052 (803) 3611 FAX：052 (803) 7435  
Email：info@santamaria.or.jp  
ホームページ：http://www.santamaria.or.jp



スマート  
フォンは  
こちらから



次回発行予定  
2026年10月



社会福祉法人 聖霊会

## 老人保健施設 サンタマリアニュース

第43号

発行日：2026年4月1日  
発行責任者：杉村公也  
発行者：広報委員会

### シスターのことば

#### 「自分と違うものを受け入れる」

黙示録7章9-10節には、ヨハネが幻の中で「数えきれないほどの大群衆」を見た場面が描かれています。そこには、あらゆる国や文化、言語をもつ人々が集まり、白い衣をまとい、手にナツメヤシの枝を持って、神と小羊をたたえていました。この光景は、救いが特定の民族や文化に限定されず、すべての人に開かれているという普遍的なメッセージを象徴しています。

現代の社会も、そして教会も、多様な背景をもつ人々が共に生きる場へと変化しています。海外にルーツを持つ方々との関わりが増え、異なる言語や文化、価値観に触れる機会が日常の中に広がっています。さらに、若い世代に合わせて、これまでの慣れ親しんだ方法を見直す必要性も生まれています。

そのような変化の中で、戸惑いや不快さを感じることもあります。慣れ親しんだやり方が変わると、心がざわつき、不安を感じるのは自然なことです。これは信仰の有無に関わらず、誰にとっても起こりうる、ごく普通の反応です。

しかし、教会の歴史を振り返ると、初代教会の使徒たちも同じような経験をしていました。異なる文化や背景をもつ人々をどのように受け入れるかをめぐって議論し、悩みながらも、少しずつ共同体の枠を広げていきました。その歩みの中で、多様性は「負担」ではなく、むしろ共同体を豊かにする力として受けとめられていきました。

黙示録の幻に描かれた「多くの人々が共に立つ姿」は、現代を生きる私たちにも示唆を与えています。違いに触れるときに生まれる心のざわつきを否定するのではなく、その中で新しい理解や関係が育まれていくことを信じる視点です。多様性とは、ただ「違う人がいる」ということではなく、互いの違いを通して新しい可能性が開かれていくことを意味しています。

違いに触れるときに生まれる心のざわつきは、多様な人々が集い、新しい関係が育っていく入口にもなります。教会も社会も、今まさに歩みの途上にあります。変化の中で不安や戸惑いが生まれますが、その経験を通して新しいつながりが育まれていくことを信じながら、これからも歩みを続けていきたいと思えます。



カトリック社会事業室 Sr.速水智恵美

## 部門紹介（看護部門）

こんにちは、老人保健施設サンタマリア看護部です。私たちは夜勤専門の看護師3名を含む総勢18名で、日々入所者の健康管理にたずさわっています。サンタマリアは病院ではありませんが、入所している方々はご高齢で、高血圧や脳血管疾患、心不全、骨粗しょう症などさまざまな基礎疾患があり、お薬をたくさん飲んでいる方も少なくありません。認知力が低下している方も多いため、必要なお薬が飲めているか、脱水になっていないか、便秘はしていないか、知らない間にどこかぶつけていないかなど、入所者の普段の状態を把握し、施設で安全に安心して生活していただくための看護を提供しています。



入所者一人ひとりにリハビリ・介護・看護で担当のスタッフが決まっており、担当入所者について気になることがあれば、普段から他部門の担当者とのコミュニケーションを図り、担当入所者についての情報共有に努め、また、入所者家族とは支援相談員と連携を図り必要時サポートを依頼しています。

各部門がそれぞれの強みを発揮しケアを提供することで、入所者一人ひとりの施設生活を整え、部門間の連携を密に図ることで、その生活のQOL向上に繋がるよう多職種連携を大切にしています。ひとりのスタッフが



気づいた入所者の「何かいつもと違う」という小さな変化を速やかに部門間で情報共有し、看護部はその変化の原因をいち早く見つけ、重症化を防ぐことができるような看護を心がけています。

サンタマリアの職員一人ひとりが入所者の「その人らしい暮らし」を支えていくことを目標にがんばっています。

## 臨地実習を終えて

当施設は将来の医療等の従事者を目指す学生さんの実習施設として門戸を広げています。2025年の実績としましては介護実習5校 延べ234名、栄養実習4校 延べ120名、リハビリ実習4校 延べ52名、看護実習1校 延べ174名の計14校 延べ580名の実習生さんを受け入れました。その内、代表として管理栄養と理学療法の実習生さんに聞いてみました。

### 管理栄養実習生 Oさん

5日間の実習を通して、管理栄養士の業務だけでなく、各職種がどのように連携しながら利用者の方を支えているのかを学ぶことができました。特に、職員の方々の明るい雰囲気と丁寧なコミュニケーションが印象的で、この温かい環境があるからこそ、利用者の方々が安心して生活できているのだと実感しました。

管理栄養士の役割は、栄養に配慮した献立を立てることだと思っていましたが、先生の「できる限り食べたいものは食べてもらう」という言葉を聞いて、利用者様の意思を尊重した食支援の大切さを深く理解しました。また、「口から食べること」を継続できるよう、多職種が協力して安全な食事提供を工夫していることも学ぶことができました。実際の食事観察では、食形態や食事姿勢、食事介助のわずかな違いが利用者様の食べやすさや安全につながっている様子を間近で見ることができ、多職種連携の大切さを現場で実感することができました。さらに、実際に新規入所者様の栄養ケアマネジメントの流れを見学させていただくことで、大学で学んだ知識が現場でどのように生かされているのか具体的に理解することができました。

この5日間で教えていただいたこと全てが新鮮で学びの多い、とても充実した実習期間を送ることができました。今回の実習で得たことを活かして、人々の健康を支える管理栄養士になりたいと思います。

温かく接して下さった職員の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 理学療法実習生 Yさん

今回の実習では、老人保健施設における理学療法士の役割や地域包括ケアシステムなどの制度について、実際の現場を通して理解を深めることができました。また、先生方も優しく声をかけて下さり、質問しやすく温かい雰囲気の中で実習に取り組むことができました。日々のご指導を通して教科書では得る事のできない知識や技術に触れ、視野が広がったと感じます。

実習を通して多くの学びを得ることができ、今後の成長に繋げる貴重な経験になったと感じています。

## 施設長に聞いてみました『内科にも色々ありますが…』 神経内科とは -その1-

社会福祉法人 聖霊会 老人保健施設サンタマリア  
施設長 杉村 公也

私が内科医だと知ると「どんな病気を専門にしていますか？」と尋ねられることがあります。そこで「脳神経系です」と答えると「脳外科ですか」とか「精神科ですか」と聞き直されることもあります。脳神経系は循環器（心臓血管系）や呼吸器（肺）、消化器（胃腸や肝臓や膵臓）、糖尿病やホルモン臓器の疾患に比べて内科の専門分野としては珍しいのかもしれませんが。

内科の中でも臓器別専門性の分離が遅れたこともあって、以前は脳外科医が手術をしない脳疾患として扱ったり、精神科医が運動や感覚機能の異常を扱うこともあり、一般内科医が扱うことが多かったです。そこで具体的にどんな疾患が脳神経内科医の専門に扱う疾患になるのかを紹介していきます。

神経細胞が正常に働かなくなる病気があります。遺伝子が関係していることもありますが、今も原因不明なものが多いです。これらの疾患は神経難病と言われ、治療も困難で進行性に悪化します。筋萎縮性側索硬化症（ALS）や脊髄小脳変性症（SCD）などの名前は聞いたことが多いのではないでしょうか。アルツハイマー型認知症なども真の原因は不明ですが、老化が深く関連していると考えられており、高齢社会の大きな社会問題となっています。

しかしこうした難病ばかりを神経内科医が扱っているのではなく、頭痛やめまいによる神経内科受診の患者さんは多くいます。これらの疾患は鎮痛剤など症状を抑える対症治療があり一時的には症状を抑えることができます。しかし頭痛のような脳の働きの異常による疾患も原因治療が無いことは神経難病と同様で、そのため繰り返し再発します。

（広報誌 44号 神経内科とは -その2-へ続く）

## 新入職員紹介 新入職員の方に聞いてみました。★

♥️ 好きな○○ ◆️ 苦手な××

飛田 美恵 介護士

- ♥️ 推し活
- ◆️ ゴキブリ



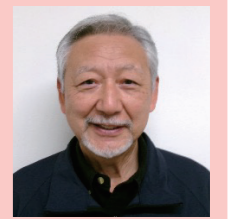
前田 寿明 守衛

- ♥️ 甘いもの
- ◆️ 行列に並ぶこと



寺澤 計次 ドライバー

- ♥️ 釣り
- ◆️ 生がき



兵頭 茜 ドライバー

- ♥️ 猫
- ◆️ 虫



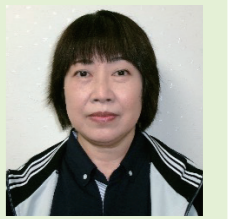
加藤 早苗 介護士

- ♥️ ゴルフ
- ◆️ 白黒はっきりしない人



津田 英子 介護士

- ♥️ ライブ
- ◆️ 虫



利用者様の作品



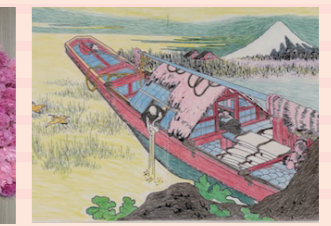
▲紅葉



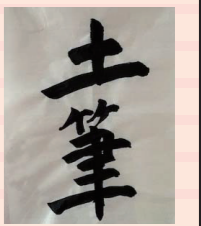
▲梅



▲桜



▲富士三十六景 常州牛堀



▲つくし